



## 八丈島における地域未利用資源の循環利用を目指して



八丈農業を支えるフェニックス・ロベレニー（写真1）の生産現場では、多くの老朽木<sup>ろうきゅうぼく</sup>が出荷されずに圃場<sup>ほじょう</sup>に放置されている現状がみられます（写真2）。若木への更新には、老朽木<sup>ろうきゅうぼく</sup>の処分と活用が課題でした。また、水産業を支えるクサヤなどの製造では、多量の内臓が活用されずにはいき<sup>はいき</sup>廃棄されていました（写真3）。このフェニックス・ロベレニー（以下、ロベ）およびクサヤ等の加工残渣<sup>ざんざ</sup>（以下、残渣）を資源として循環利用するために混合堆肥化方法<sup>こんごうたいひか</sup>について検討しました。



写真1  
フェニックス・  
ロベレニー

じゅうきんぞくがんゆうりょう ひりょうとりしまりほう  
重金属含有量も肥料取締法<sup>※1</sup>に基づく基準値以下の安心・安全な堆肥<sup>たいひ</sup>が出来ました（写真5）。



写真4 ロベチップ（左）、写真5 試作堆肥

### 試作堆肥<sup>しさくたいひ</sup>の作物への効果は？

試作堆肥<sup>しさくたいひ</sup>の作物生育への効果を知るためにコマツナ、オクラ、サンダーソニアを用いて試験を行いました（写真6～8）。コマツナ、オクラおよびサンダーソニアでは試作堆肥<sup>しさくたいひ</sup>を施用<sup>せりょう</sup>すると市販堆肥<sup>しはんたいひ</sup>と同等かそれ以上の収量を確保できました。

今回の方法で、はいき<sup>はいき</sup>しよぼん<sup>しよぼん</sup>とろきゅうぼく<sup>ろうきゅうぼく</sup>と水産加工残渣<sup>すいざんかこうざんざ</sup>を混合して堆肥化<sup>たいひか</sup>すれば、未利用資源から安全で作物栽培に有用な堆肥<sup>たいひ</sup>を作成でき、島内に普及可能な技術であることがわかりました。



写真6、7、8 生育試験（左：オクラ、右：サンダーソニア、下：コマツナ）

※1 肥料の品質等を保全し、その公正な取引と安全な施用を確保するために昭和25年に制定された法律



写真2 廃棄されたロベ老朽木（左）、写真3 水産加工風景（右）

### ざんざ<sup>ざんざ</sup>とロベチップ<sup>たいひ</sup>を混ぜて堆肥に

ざんざ<sup>ざんざ</sup>はそのまま放置するとすぐに腐敗<sup>ふはい</sup>し、強い臭いを発生させます。しかし、米ぬか<sup>まいぬか</sup>を混合し、発酵<sup>はっこう</sup>させることで臭いを低減でき、腐敗<sup>ふはい</sup>することもなく保存性の向上が可能となることわかりました。また、米ぬか<sup>まいぬか</sup>で処理した残渣<sup>ざんざ</sup>と、チップ化したロベチップ<sup>たいひ</sup>（写真4）を混合し3ヶ月間堆積<sup>たいせき</sup>すると、